海陽まるわかり検定

ガイドブック

文化財編

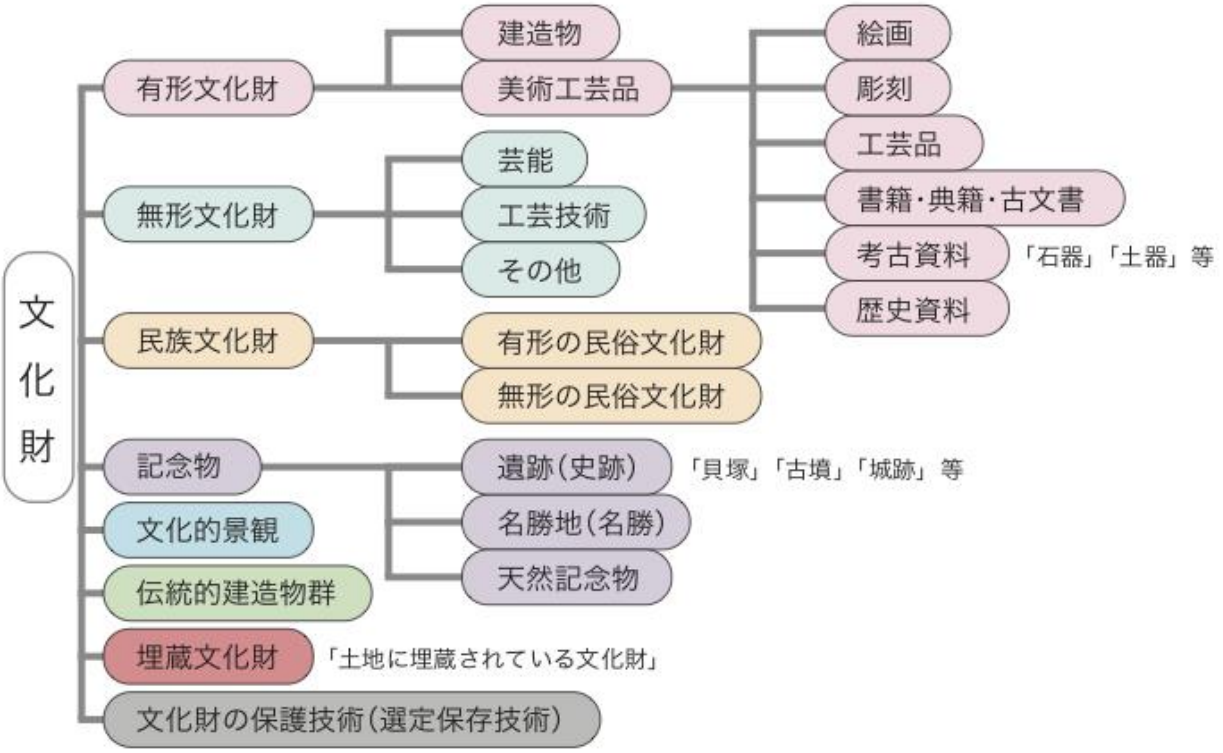


海陽町教育委員会

Kaiyo Kentei

文化財は歴史や文化を知るための宝物です。

このガイドブックには、海陽町のたくさんの文化財が登場します。どれも未来に伝えていくべき価値のある大切なものですが、一口に文化財と言っても、その種類は様々です。以下の図は文化財の分類となりますので参考にして下さい。



目次

豊かな自然が生む遺産 1

国指定のオオウナギ生息地！ 2
小学生が発見！妙見山のヤッコソウ 3
数千万年前から届いたタイムカプセル！海陽町のすごい地層 4
不思議な寄生植物　ツチトリモチ 5
世界最小のトンボが生息！ 6
アカウミガメの産卵 6
海陽町も熱帯雨林？ 7
海陽町で新種の植物が見つかった！ 7
笹無谷の奥深くには数多くの巨大天然杉が！ 8
海陽町の珍しい植物たち 9

古代の生活を残す史跡 10
県内最大級の石室を持つ古墳　大里 2 号墳 11
宍喰古墳は鷲住王一族の古墳か？ 12
寺山 3 号墳が造られたのは卑弥呼の時代！ 13
海上交通の重要拠点だった　芝遺跡 14
多良古墳群の前方後円墳は国指定史跡級！？ 15
海陽町には四国一の大金持ちがいた！？ 16
海部城は島だった！ 17
和奈佐意富曾神社は古来より続く！ 18

受け継がれてきた文化財 19
お殿様も認めた！海部刀のひみつ 20
藩主も認めた刀工　海部氏吉 21
全国でたったの 6 部だけ！江戸時代の風習を記す文書 22
御崎神社の梵鐘は県内最古！ 23
3 つの寺の遺産が残る　大日寺 23
本尊は日本三体歯仏　願行寺 24
海陽町の神社に多い！？謎の割拝殿 24
平家の落ち人の弔いの舞いが由来　船津太刀踊り 25
東北の敵討ちの物語が由来　宍喰の団七踊り 25
海陽町のもうひとつの式内社　阿津神社 26
「乃一」が開拓した四方原　四方原開拓碑 27

豊かな自然が生む遺産



海部川

徳島県の最南端に位置する海陽町は、温暖で雨の多い、南国を思わせる気候の町です。町の北西部の山地を水源として、海部川（かいふがわ）や宍喰川（ししくいがわ）などの清流が流れています。ふつう、大きな河川はいくつもの市町村をまたいで流れるものですが、この２つの川は、源流（川の始まり）から河口（海へ注ぐ出口）まで、すべて海陽町内だけを流れるという、全国的にも珍しい特徴を持っています。

また、海陽町は豊かな森林に囲まれていることも大きな特徴です。よその地域なら災害になってしまうような大雨が降っても、森の土壌が雨水をたっぷりとたくわえ、川へゆっくりと流してくれるため、被害を防いでくれます。

こうした豊かな自然環境が保たれているからこそ、海陽町では、ほかではめったに見られない貴重な動植物が数多く息づいているのです。

絶滅危惧種（ぜつめつきぐしゅ）のカテゴリ

国際自然保護連合（IUCN）や環境省、各都道府県が作成するレッドリストでは、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧種）について、絶滅の危険性の高いものから「絶滅危惧 IA 類」、「絶滅危惧 IB 類」、「絶滅危惧Ⅱ類」と区分されています。

（徳島県版レッドリストにおける海陽町の絶滅危惧種の具体例）

【絶滅危惧 IA 類】



ミズトラノオ

【絶滅危惧 IB 類】



ヤッコソウ



ハッチョウトンボ

【絶滅危惧Ⅱ類】



オオウナギ

海陽町観光協会より

国指定のオオウナギ生息地！

海部川の支流である**母川**は、昔から**オオウナギの生息地**として知られています。オオウナギは、なんと最大で２メートルにもなる大型のウナギで、背中には黒とベージュのまだら模様があります。「かにくい」と呼ばれることもあり、その名のとおり、エビやカニなどの甲殻類が大好物です。実はこのオオウナギ、江戸時代から人々の注目の的でした。江戸時代後期のガイドブック阿波名所図会[1]には、せりわり岩のそばを大きなオオウナギがゆったりと泳ぐ姿が描かれています。また、江戸時代の出来事をまとめた野村家文書[2]によると、1740年に阿波（徳島）の藩主だった蜂須賀宗鎮が高園を訪れたとき、母川のオオウナギやせりわり岩の伝説についてたずねた、という記録も残っています。この「せりわり岩」のまわりは、「**母川オオウナギ生息地**」として**国の天然記念物**に指定されています。そのため、今でも昔のままの豊かな自然が大切に守られています。



阿波名所図会の大鰻

参考：「海南町史」（下巻）p1244～1269　編集：海南町史編さん委員会　1995年発行
「海部町史」p456，p533～534　編集：海部町史編集部　1971年発行
「阿波名所図会をよむ」p32～34　編集：板野町古文書を読む会　2019年発行
徳島県文化の森総合公園／とくしまデジタルアーカイブ「郷土関係和古書　一覧・挿絵目次」
https://adeac.jp/tokushima-bunkanomori/top/topg/library/wakosyo.html#course1

1）大阪の探古室墨海という人が1811年に出版した書物で、阿波国の名所の絵に解説文が添えられています。一般の地方の国では、播磨、木曽に次いで三番目に出版された名所図会です。海陽町からは八坂八浜、母川のウナギとホタル、鈴ヶ峰の円通寺、轟の滝が紹介されています。

2）江戸時代初期から中期にかけて起こった出来事について、庄屋の野村七佐ェ門が書き残した文書です。

せりわり岩の伝説

昔々、母川にある大きな岩のすき間に、一匹の親ウナギが隠れて暮らしていました。ところが、毎日えさを食べているうちに、親ウナギの体はどんどん大きくなり、とうとう岩から抜け出せなくなってしまいました。困った子ウナギたちは、せっせと親ウナギにえさを運び続けます。すると、親ウナギの体はさらに大きくなり、ついには大きな岩を内側から真っ二つに押し割って（せり割って）外へ出てしまいました。その後、この岩は「せりわり岩」や「裂け岩」と呼ばれるようになったのです。



せりわり岩
海陽町観光協会「せり割り岩」より

小学生が発見！ 妙見山（みょうけんさん）のヤッコソウ

ヤッコソウは、シイノキという木の根もとから栄養をもらって生きている、高さ 3cm ほどの小さくて白い植物です。毎年 11 月ごろに花を咲かせます。とてもめずらしい植物で、絶滅の心配がある生き物をまとめた「徳島県版レッドリスト」では、近い将来に絶滅する危険性が高い「絶滅危惧ＩＢ類」に指定されています。



ヤッコソウ
海陽町観光協会「ヤッコソウ」より

海陽町では次の３か所で見ることができます。

・**鈴ヶ峰**（すずがみね）：たくさんのヤッコソウが生える代表的な場所で、**国**の天然記念物に指定されています。

・**妙見山**（みょうけんさん）：ヤッコソウが自然に生える「北限（これより北には生えないという境目）」の場所として、**県**の天然記念物になっています。実はここのヤッコソウは、昭和９年（1934 年）に鞆奥（ともおく）小学校の児童たちが、椎（しい）の実を拾いに山へ来たときに偶然見つけたものなんです。

・**小島**（こしま）：海部川の河口にある小島にもヤッコソウが生えています。こちらは**町**の天然記念物に指定されています。

参考：徳島県立博物館「植物観察ノート　ヤッコソウ」https://museum.bunmori.tokushima.jp/ogawa/yakkoso.htm
（令和７年５月 27 日閲覧）
海陽町観光協会「ヤッコソウ」https://www.kaiyo-kankou.jp/spots/spots-1130/　（令和７年５月 27 日閲覧）
「宍喰町誌」（上巻）p32～34　編集：宍喰町教育委員会　1986 年発行
「海部町史」ｐ456　編集：海部町史編集部　1971 年発行

☑ 練習問題にチャレンジ！

海陽町のヤッコソウ自生地のうち、最も北にあるヤッコソウの自生地は次のうちどれでしょう。

１　鈴ヶ峰　　２　海部の小島　　３　妙見山　　４　王余魚谷

正解は 27 ページをチェック！

数千万年前から届いたタイムカプセル！海陽町のすごい地層

海陽町には、数千万年も前の「波のあと」がそのまま固まって残った、めずらしい地層があります。これを**化石漣痕**と呼びます。

なかでも、宍喰にあるものは日本最大級の大きさで、「宍喰浦の化石漣痕」として**国**の天然記念物に選ばれています。また、海部の野江地区にも、**町**の天然記念物になっている「轟の漣痕」があります。



化石漣痕
海陽町観光協会「国指定天然記念物「化石漣痕」」より

大昔の地球の記録を伝える場所は、ほかにもあります。浅川の加島では、2400 万年以上前の地層が見られます。ここには、大昔の水の流れや生き物が動いてできた底痕[3]という模様や、地震のときに地面がどろどろの液体のようになってできた砕屑岩脈[4]という岩のすじが残っています。この「加島の堆積構造群露頭」は、**県**の天然記念物になっています。

さらに、竹ヶ島には、3～4 千万年前に生きていた生き物が動いたあとがそのまま化石になった「竹ヶ島生痕化石」もあり、こちらは**町**の天然記念物です。

参考：「宍喰町誌」（下巻）p1715，p1911～1913　編集：宍喰町教育委員会　1986 年発行
「海南町史」（上巻）p34～36　編集：海南町史編さん委員会　1995 年発行
海陽町観光協会「国指定天然記念物「化石漣痕」」　https://www.kaiyo-kankou.jp/spots/spots-1507/
（令和 7 年 5 月 12 日閲覧）
文化庁「文化遺産オンライン」　https://bunka.nii.ac.jp/　（令和 7 年 5 月 12 日閲覧）

3）泥などの固まっていない堆積物の表面に、水流や生物の活動によって溝がつくられ、その上に砂が降り積もり固まることで、砂岩の底にできる模様のことです。加島の地層は海底の斜面崩壊などによって堆積した砂岩と泥岩の層が交互に積み重なっており、底痕が発達しやすいです。

4）砂や礫が地層の裂け目に入り込み、固まることで形成される岩のことです。重力によって砂が割れ目に落ちることでつくられます。また、地震の際に液状化現象が起こると、水を含んだ流砂が地層の裂け目にも入り込むため、そのまま固まると砕屑岩脈になります。

練習問題にチャレンジ！

化石漣痕とは、もともとどのような現象が固まってできたものですか？

1　波のあと　　2　生き物の足跡　　3　樹木の化石　　4　火山の灰の層

正解は 27 ページをチェック！

不思議な寄生植物　ツチトリモチ

櫛川(くしかわ)の杉尾(すぎお)神社には、町の天然記念物に指定されている、とても不思議な植物が生えています。

その植物の名前はツチトリモチ。「トリモチ」とは、昔、小鳥などをつかまえるために使っていたネバネバした接着剤のような道具のことです。この植物の根を使ってそのトリモチを作っていたことから、この名前がつきました。



ツチトリモチ

11月ごろになると、木の根もとから赤くてかわいいキノコのような姿を現しますが、キノコではありません。

頭の丸い部分をよく見ると、赤いつぶつぶでびっしり覆われているのがわかります。これはすべて「雌花(めばな)(めしべを持つ花)」が集まったものです。

ここで最大の不思議があります。なんと、ツチトリモチには「雄花(おばな)（おしべを持つ花)」がまったく見つかっていないのです。

ふつうの植物はおしべの花粉とめしべが結びついてタネを作りますが、ツチトリモチは雌花だけで、クローンを作るようにして仲間を増やしています。これを理科の言葉で「単為生殖(たんいせいしょく)」といいます。

参考：徳島県立博物館友の会会報　アワーミュージアム　第61号p1～2「知っとうでー　海部の宝もの」
著者：森 敏博　2018年発行

✅ 練習問題にチャレンジ！

ツチトリモチは生物学的に何に分類されますか？

1　海藻　　2　キノコ（菌類）　　3　植物　　4　コケ

正解は27ページをチェック！

世界最小のトンボが生息！


ハッチョウトンボの
大きさのイメージ

ハッチョウトンボは、**世界最小**のトンボです。体の長さは**約 2cm** で、1 円玉とほぼ同じ大きさしかありません。体がとても小さいので、長い距離を飛んで移動することができません。そのため、生息できる場所が限られていて、日本全国でも数が減っています。徳島県では、近い将来に絶滅する危険性がとても高い「絶滅危惧 IB 類」に指定されています。

海陽町では、この貴重なハッチョウトンボを**町**の天然記念物に指定して大切に守っています。町内では、中山（なかやま）のトンボ公園や、宍喰のいくつかの場所で見ることができます。もし見つけたら、そっと見守ってあげてくださいね。

参考：「ハッチョウトンボの里　海部」　著者：中山 徹　2015 年発行

アカウミガメの産卵


アカウミガメ
海陽町観光協会より

大里松原（おおざとまつばら）海岸は、**アカウミガメ**が卵を産みにやってくる場所として知られています。5 月から 7 月の夜、母親のウミガメが砂浜に上がってきて、一度に約 100 個もの卵を砂の中に産み落とします。それから約 2 か月たつと、卵からかえった子ガメたちが、いっせいに広い海へと旅立っていきます。しかし今、アカウミガメは徳島県で「絶滅危惧 IB 類」に指定されており、年々数が減っています。ウミガメたちが安心して産卵できる自然を守っていくことが、とても大切です。そんななか、2024（令和 6）年には、大里海岸で 8 年ぶりに産卵が確認され、うれしいニュースとして話題になりました。

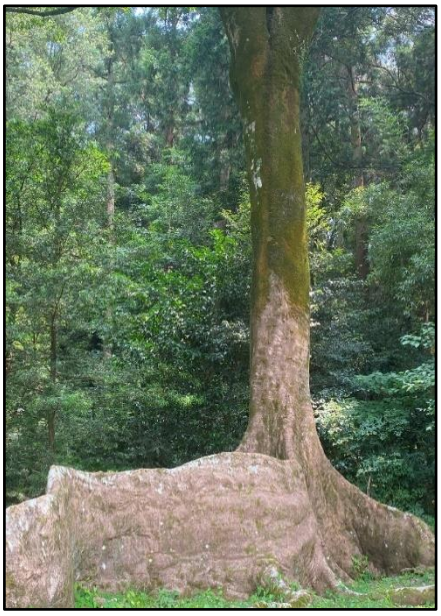
参考：海陽町観光協会「大里松原海岸」https://www.kaiyo-kankou.jp/spots/spots-1252/　（令和 7 年 5 月 13 日閲覧）
徳島新聞「8 年ぶりにウミガメの産卵確認、海陽町の大里松原海岸」2024 年 7 月 27 日
https://www.topics.or.jp/articles/-/1105547　（令和 7 年 5 月 13 日閲覧）
徳島県「徳島県版レッドデータブック」https://www.pref.tokushima.lg.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html/
（令和 7 年 5 月 13 日閲覧）

海陽町も熱帯雨林？

「熱帯雨林」と聞くと、遠い国のジャングルを思い浮かべるかもしれません。でも実は、私たちの海陽町にも、熱帯雨林のジャングルで見られるような不思議な景色があるんです。

大里（おおざと）にある「エノキ」という大きな木を見に行ってみてください。根もとを見ると、板のような根が、大きなものだと 1 メートルほども地上に浮き上がっています。

このような根を「板根（ばんこん）」と呼びます。この木は**エノキの板根**として、**町**の天然記念物に指定されています。



大里の「エノキの板根」

参考：海陽町「海部のふるさとマップ ～海陽町編～ 海部」
https://www.town.kaiyo.lg.jp/bunkamura/shisetsu/hakubutsukan/siryou.html
（令和７年６月２日閲覧）

海陽町で新種の植物が見つかった！

2021 年、海陽町で新種の植物が発見されました。旧海南地区で見つかったことにちなんで、**カイナンカンガレイ**と名づけられています。

「カンガレイ」とは、水辺などに生える高さ 50～120cm ほどの多年草（毎年枯れずに育つ植物）で、畳に使われる「イグサ」に似た茎を持っています。



カイナンカンガレイ

冬の寒い時期に、枯れた姿のまま残る特徴があることから、「寒い季節に枯れるイグサ（藺）」という意味で「寒枯藺（かんがれい）」と呼ばれています。海陽町で見つかったのは、その新しい仲間なのです。

参考：阿波学会紀要　第 63 号　p173～182　著者：木下覺　編集：阿波学会　2021 年発行

笹無谷の奥深くには数多くの巨大天然杉が！

海部川の支流の笹無谷川を奥へさかのぼっていくと、息をのむような光景が広がっています。**禅僧杉**と呼ばれる、幹周りが３メートルを超えるような天然杉の巨木が、数多く見られるのです。

この禅僧杉のなかでも、とくに大きく個性的な杉には、名前がつけられています。



よっとさん（太郎杉）

幹のまわりはなんと 10.33 メートル。中学生が４～５人で手をつないで、やっと囲めるくらいの太さです。昔、この山の管理をしていた岡崎好利さんが、この木の一部を伐採したというエピソードから、親しみを込めて「よっとさん」と呼ばれています。別名は「太郎杉」です。

今津屋大王（次郎杉）



昔この山を持っていた家の屋号（お店の名前のようなもの）から名づけられました。幹のまわりは 9.5 メートル、高さはなんと 34 メートル（マンションの 11～12 階くらい）もあり、別名「次郎杉」とも呼ばれています。

徳島県の調査[5)]によると、平成７年（1995 年）の時点で、今津屋大王の幹のまわりは 8.42 メートルでした。それが今では 9.5 メートルにまで成長しています。人間と同じように、杉の木も長い年月をかけて、今なお少しずつ大きくなり続けているのです。令和８年（2026 年）、海陽町の豊かな自然のシンボルとして、この**笹無谷のスギ等巨木群生地**は、**県**の天然記念物に指定されました。

参考：「海陽町天然スギ群生地に関する調査書」　作成：海陽町教育委員会　2025 年作成

5)『徳島県緑の遺産継承事業＜樹木保存マニュアル＞』（平成７年、徳島県林務課）作成時の調査を指します。この調査における県内最大の杉の木は西祖谷山村（三好市）上吾橋五所神社の大杉で、幹周 12.23m の大きさです。

海陽町の珍しい植物たち

海陽町で育つめずらしい植物は、ヤッコソウやツチトリモチだけではありません。ほかのめずらしい植物の一部を紹介します。


タコノアシ

○タコノアシ（徳島県：絶滅のおそれがある「絶滅危惧 II 類」）

秋になると全体が真っ赤に紅葉します。枝先に小さな実が並んでつくのですが、それがまるでタコの吸盤のようで、名前のとおり、ゆでたタコの足が地面から生えているようなユニークな姿になります。湿った場所が好きで、宍喰の塩深（しおふか）の棚田などで見ることができます。


ミズトラノオ

○ミズトラノオ（徳島県で最も絶滅が心配される「絶滅危惧 IA 類」）

水辺や湿地によく生える植物です。秋になると、紫色の小さな花が集まって「トラのしっぽ」のような形になります。タケノコやジャガイモのように、地面の下の茎をのばして仲間を増やしていくのが特徴です。海南の吉野にある覚成寺（かくじょうじ）の前で見ることができます。


ツクシイバラ

○ツクシイバラ（徳島県：絶滅のおそれがある「絶滅危惧 II 類」）

5 月ごろに、白やピンク色の花を咲かせるバラの仲間です。もともと九州に多く生えていることから、九州の古い呼び名「筑紫（つくし）」をとってこの名前がつきました。川の近くを好み、海部の母川の土手で元気に育っています。

これらの植物は、生きる場所がどんどん減ってしまい、絶滅が心配されています。私たちのすぐ近くにある海陽町の豊かな自然を、これからも大切に守っていきましょう。



古代の生活を残す史跡

実は海陽町は、知る人ぞ知る**古墳**（こふん）の宝庫なんです。驚くことに、近隣の町からは古墳がまだひとつも見つかっていません。なぜ海陽町にだけたくさんあるのか、不思議に思えてきませんか。

そもそも古墳とは、今から 1300～1700 年ほど前に造られた、大昔の王や、力を持っていた豪族（ごうぞく）の墓のことです。小さな山のように土を高く積み上げているのが特徴で、上から見た形によっていくつかの種類に分かれています。

そんな海陽町の古墳のなかでも、近年、歴史的な大発見がありました。2023 年に多良（たら）で見つかった前方後円墳です。なんとこれは、四国の太平洋側では唯一（ゆいいつ）の前方後円墳なのです。令和８年８月現在も調査が続いており、この古墳から、歴史の教科書に載るような新たな事実が見つかるかもしれません。

海陽町には古墳のほかにも、弥生時代の村の跡や、戦国時代の城跡など、たくさんの歴史スポットが眠っています。次のページからは、史跡や文化財などを中心に見ていきましょう。

主な古墳の種類と上から見た形

		
円墳	方墳	前方後円墳

※古墳時代以前のお墓は墳丘墓（ふんきゅうぼ）、古墳時代に造られたお墓は古墳と呼ばれ、区別されています。

県内最大級の石室を持つ古墳　大里２号墳

大里2号墳は、徳島県内の古墳のなかでも、トップクラスに大きな石の部屋（石室）を持つ、すごい古墳です。

今から 1400 年ほど前（6 世紀の終わり～7 世紀のはじめごろ）に造られた、丸い形をした**円墳**です。まわりにはお堀がめぐらされていて、直径は約 20 メートル、高さは 4～5 メートルもあります。

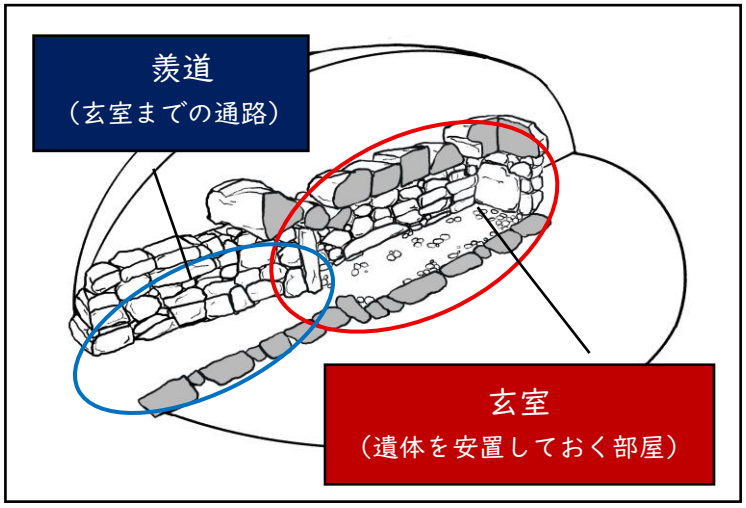
この古墳の最大の特徴は、**横穴式石室**の大きさです。

全長はなんと 11.2 メートルもあり、学校の教室の長さよりも長いほどです。

入り口から進むと、棺を納める「玄室」という部屋にたどり着きます。この古墳は、県の**史跡第１号**にも指定されました。



大里２号墳



大里２号墳の断面図

古墳から見つかった「宝物」たち（1996 年の調査）

耳環：昔のイヤリング

鉄鏃：鉄でできた矢の先（矢じり）

須恵器：当時の最新技術で作られた、灰色の硬い土器



横穴式石室が 10m 以上の石室のある古墳は徳島県に３つしかないんだって！
大里古墳は県内で２番目の長さだよ！

参考：「海南町史」（上巻）p123-138　編集：海南町史編さん委員会　1995 年発行
「阿波海南 大里２号墳発掘調査報告書」　編集：徳島大学考古学研究室　1997 年発行
「はじめての埋蔵文化財」　編集：海陽町立博物館　2021 年発行

宍喰古墳は鷲住王一族の古墳か？

久保にある**宍喰古墳**は、今から約 1500 年前（6 世紀）に造られたお墓です。ここには、日本書紀にも登場する**鷲住王の一族**が眠っているのではないか、というロマンあふれる説があります。

この古墳が最初に見つかったのは、大正 11（1922）年のこと。地主の橋本さんが偶然発見したのがきっかけでした。その後、調査が行われ、昭和 50（1975）年に、グラウンドを整備するために今の場所へと移されました。

宍喰古墳の注目点は、石で組まれた部屋（石室）の規模です。遺体を納めるメインの部屋（玄室）は長さ 7 メートルに達し、近隣の大里 2 号墳の 5.7 メートルを上回り、四国地方でも屈指の規模を誇っていました。現在は一部移転により当時の姿を直接見ることができませんが、その記録は今も高い価値を持っています。



1947 年の宍喰古墳周辺
国土地理院撮影の空中写真（1947 年撮影）を加工



2017 年の宍喰古墳跡周辺
国土地理院撮影の空中写真（2017 年撮影）を加工

1974 年に調査したときに発見された宝物（副葬品）は、残念ながら失われており、お墓の入り口（羨道）を含めた全体の形や、本当にだれが眠っていたのかなど、今も多くの謎が残されています。それでも、これほど大きなお墓を造ることができたということは、当時、この地域にとても大きな力（権力）を持ったリーダーがいた証拠だといえます。当時の海陽町の力強さを感じられる、貴重なスポットです。

参考：「宍喰町誌」（上巻）p76～81　編集：宍喰町教育委員会　1986 年発行
「はじめての埋蔵文化財」　編集：海陽町立博物館　2021 年発行

練習問題にチャレンジ！

宍喰古墳の玄室の長さはどのくらいありますか？

1　約 10 メートル　　2　約 3 メートル　　3　約 7 メートル　　4　約 15 メートル

正解は 27 ページをチェック！

寺山３号墳が造られたのは卑弥呼（ひみこ）の時代！

海部川と母川にはさまれた台地（野江・寺山地区）には、かつて**寺山古墳群**（てらやまこふんぐん）と呼ばれる３つのお墓がありました。形はそれぞれ違っていて、１号墳は形が分かっておらず、２号墳は四角い形、そして一番の注目である３号墳は「前方後方墳（四角を２つつなげた形）」と考えられています。ただし、この３号墳の形については「実は丸い形の前方後円墳や墳丘墓だったのではないか」など、今でも研究者の間で意見が分かれている、謎の多いお墓です。

寺山古墳群の出土品である破砕鏡（はさいきょう）（割れた銅鏡）は、中国の漢王朝の時代（紀元前 206 年～紀元 220 年）の代表的な鏡である**内行花文鏡**（ないこうかもんきょう）と見られ、有力な勢力とのつながりを示す重要な資料です。

造られた時期は、１号墳と２号墳が６世紀と考えられていますが、３号墳はちょうど卑弥呼の時代にあたる ３ 世紀初めに造られたと考えられています。これほど古い時代に墳丘墓を造れる勢力が海陽町に存在したことは、古代の海陽町が、太平洋側の重要な拠点だったことを物語っています。

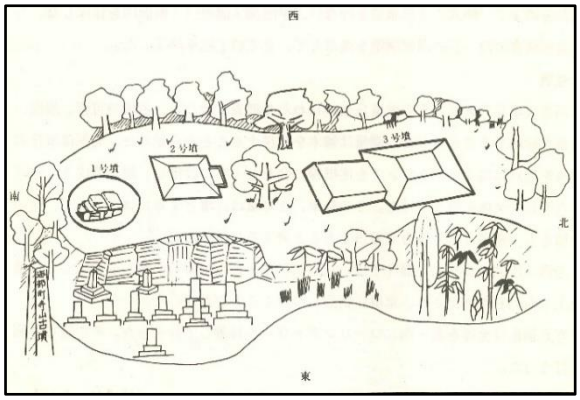
残念ながら、現在は圃場整備（ほじょうせいび）（農地の区画づくり）にともなって取り壊されており、跡地には石碑と説明板が建てられています。



内行花文鏡
はじめての埋蔵文化財より



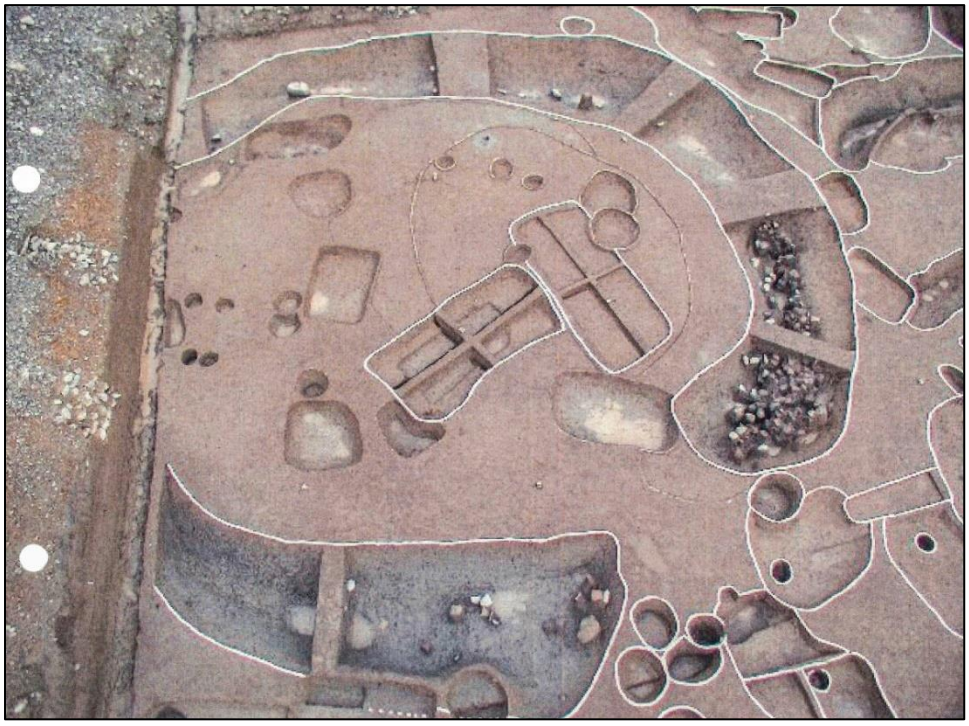
東から見た寺山古墳群
寺山古墳発掘調査より



寺山古墳群のイメージ図
寺山古墳発掘調査より

参考：「寺山古墳発掘調査」　編集：海部町教育委員会　1980 年発行
「はじめての埋蔵文化財」　編集：海陽町立博物館　2021 年発行

海上交通の重要拠点だった　芝遺跡



芝遺跡

芝遺跡からは、弥生時代の終わりごろに使われていた、とても性能の良い**鍛冶炉**（鉄を加工する炉）や、弥生時代の中ごろにつくられた**円形周溝墓**（まわりに溝をめぐらせたお墓）が見つかっています。

ここは当時、海上交通がさかんな重要な拠点でした。

ほかの地域からやってきた土器がたくさん見つかっており、その土器には煮炊きしたあとが残っていました。つまり、遠くから船でやってきた人たちが、自分の土器を持ってここにとどまり、食事を作って暮らしていた可能性があるのです。

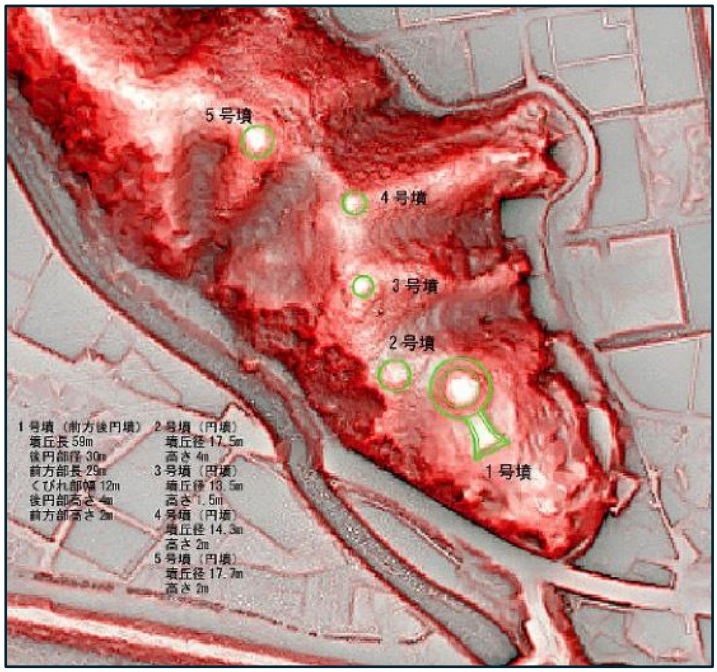
ほかにも、赤い顔料の原料**水銀朱**がついた石のすりこぎや、香川県から運ばれてきたサヌカイトも見つかっており、各地と活発にやり取りをしていたことが分かります。

今「野江町民体育館」や「給食センター」が建っている場所は、古代、大いに栄えた地域だったのです。

参考：「芝遺跡 海部小学校体育館・校舎建設に伴う発掘調査報告書」　編集：海部町教育委員会　1980 年発行
「はじめての埋蔵文化財」　編集：海陽町立博物館　2021 年発行

多良古墳群の前方後円墳は国指定史跡級！？

多良古墳群は、多良地区の山の尾根に５基の古墳がまとまって並ぶ古墳群です。海部川の河口を見わたす見晴らしのよい立地に築かれており、いずれも古墳時代前期（3 世紀中ごろ～4 世紀）に造られたと考えられています。



多良古墳群の赤色立体図

徳島県林業振興課作成赤色立体図より

前方後円墳で、徳島県内では 16 例目の前方後円墳にあたります。前方後円墳とは、円形と方形（四角形）を組み合わせた鍵穴のような形の墓で、古墳時代には皇族や有力な支配層に限って造ることが許されたとされます。施工の方法や造られた位置などから、1 号墳と 2 号墳は密接な関係を持つと考えられ、この 2 基が古墳群の中心をなしています。

この前方後円墳がとりわけ注目されるのは、これまで「前方後円墳の空白地帯」とされてきた四国の太平洋側で、初めて前方後円墳を含む古墳群が確認[6]されたためです。これは、のちに列島をまとめていくヤマト王権の形成に連なる有力な一族が、その最も早い段階からこの地に拠点を構えていた可能性を示します。

この古墳群は、2023 年 9 月、海陽町立博物館の職員が航空レーザー測量による**赤色立体図**（地形の凹凸を立体的に表した図）を用いて発見しました。特に価値が高いと考えられる 1 号前方後円墳と 2 号円墳について、海陽町が国史跡の指定を目指して調査を進めています。小さな町に古代の王族の存在をうかがわせる大発見として、専門家の間でも「海陽町が古墳時代に想像以上に重要な拠点だった可能性がある」と注目を集めています。

参考：阿波海南文化村「阿南安芸自動車道　海部野根道路（多良地区）において発見された古墳について」
https://www.town.kaiyo.lg.jp/bunkamura/docs/2024082800011/

6）高知県宿毛市の平田曽我山古墳も前方後円墳と考えられていますが、1948 年の発見当時には既に大部分が崩壊していたため、その区分には諸説あります。

海陽町には四国一の大金持ちがいた！？

大里出土銭は、1979（昭和 54）年に大里２号墳の近くで発見されました。古いお金は、大甕と呼ばれる大きなかめの中に入れられていて、その数はなんと**７万 88 枚**で、これは**四国最多の埋蔵量**となります。

驚くことに、見つかったお金の約９割は、中国から海を渡ってやってきた「渡来銭」でした。なかでも、昔の中国の王朝（宋）の時代に作られた「北宋銭」が多く入っていました。

さらに面白いのは、1300 年近くもの時代の差があるお金が、大甕にいっしょに埋められていたことです。



見つかった古銭と甕

最も古い銭は、中国の新王朝[7]が西暦 14 年につくった「貨泉」、最も新しい銭は元王朝が 1310 年につくった「至大通宝」でした。

これらの銭は、室町時代の 14 世紀後半ごろに埋められたと考えられています。これほどたくさんのお金が集められていたことから、海陽町では昔から、お金を使った商売や暮らしが広がっていたことが分かります。

この四国一のお金持ちは、いったいだれだったのでしょうか。見つかった銭や大甕は、海陽町立博物館で見ることができます。



三国志よりも前の時代からチンギス・ハンの時代まで、
様々な時代の古銭が埋められていたんだね。

参考：「海南町史」（上巻）p123～138　編集：海南町史編さん委員会　1995 年発行
「阿波海南 大里２号墳発掘調査報告書」　編集：徳島大学考古学研究室　1997 年発行
レキシルとくしま「大里出土銭」https://www.pref.tokushima.lg.jp/rekishiru/remains/5023289
（令和７年６月４日閲覧）

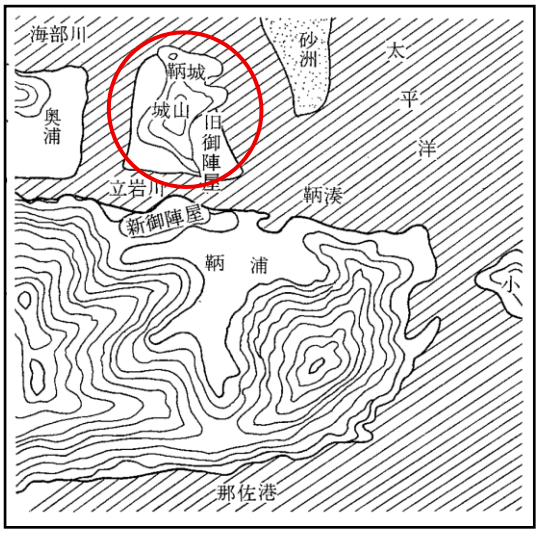
7）新は紀元 8 年から 23 年に存在した中国の王朝です。前漢の皇后の甥にあたる「王莽」が政治活動を通じて成立させた王朝です。古代中国の周王朝の時代を理想とした政策を行いましたが、現実にそぐわない内容が多く、社会混乱を引き起こしたため、農民や豪族の反乱によってわずか１代で滅びました。貨泉は新の貨幣制度改革の一環として発行されました。

海部城は島だった！

海部城（別名・鞆城）は、戦国時代の終わりごろ（1558～1570年）に、この地域を治めていた**海部友光**という武将が建てたお城です。

海部城は、今の海部小学校の東にある山の上につくられました。今は陸続きですが、当時は城山が海部川によって分けられ、島になっていました。

そのため、船を使わないと行くことができない、天然の要塞だったのです。



古代の鞆浦
海部町史より

この海部城は、阿波（徳島）の守りの要だった**阿波九城**という９つのお城の１つでした。となりの土佐（高知）にとても近かったため、敵が攻めてこないか見張る、重要な役割を持っていたのです。

歴史のなかでは、激しい戦いも経験しています。1575年には土佐の長宗我部軍に、1585年には豊臣秀吉の軍に攻められ、二度もお城が落とされました。その後、江戸時代になって「１つの国にお城は１つだけ」という幕府のルール（一国一城令）ができたため、1637年にお城としての役目を終えました。

海部城跡は地域の人たちのおかげで登りやすくなっているよ。



参考：「海部町史」p46～52　編集：海部町史編集部　1971年発行
史学論叢　第37巻 p37～59　「阿波国蜂須賀氏の支城「阿波九城」について」　著者：福永素久　2007年発行

阿波九城とは？

徳島藩の藩祖、蜂須賀家政が整えた、阿波国の９つの支城（本城を支える城）のことです。支城ですので、本城である徳島城は阿波九城には含まれません。阿波九城と呼ばれるのは、次の城です。

- 一宮城（徳島市）
- 撫養城（鳴門市）
- 西条城（阿波市）
- 川島城（吉野川市）
- 池田（大西）城（三好市）
- 脇城（美馬市）
- 仁宇山城（那賀町）
- 海部（鞆）城（海陽町）
- 富岡（牛岐）城（阿南市）

和奈佐意富曾神社は古来より続く！

鞆鞆浦の大宮山にある**和奈佐意富曾神社旧社跡**は、**町**の文化財に指定されています。

この神社の歴史はとても古く、一説には西暦 200 年（今から 1800 年以上も前）、神功皇后の皇子である誉田別命（応神天皇）の御影（肖像）を、ここ鞆浦に祀ったのが始まりだと伝えられています。

平安時代になると、「式内社」という国からお墨付きを得た神社とされました。

その後、和奈佐意富曾神社は、次のような歴史をたどりました。



和奈佐意富曾神社（中宮さん）
大里八幡神社総代会 HP より

・慶長 9 年（1604 年）：大里松原へ遷座（神社を移すこと）し、のちに大里八幡神社に合祀（いっしょに祀ること）されました。

・明治時代：延喜式に記された古い神名を後世に伝えるため、大里八幡神社の南へ約 200 メートルの場所に、新しく分社（神様を分けてお迎えすること）されました。

こうして今も、地元の人々から「中宮さん」と呼ばれて親しまれています。

参考： 大里八幡神社総代会 HP
https://sites.google.com/view/osatohachiman/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0
（令和 7 年 5 月 27 日閲覧）
「大里八幡神社祭礼」p9～13　編集：高橋晋一　1999 年発行
「海南町史」（下巻）p871～872　編集：海南町史編さん委員会　1995 年発行
「海部町史」p 13～14　編集：海部町史編集部　1971 年発行
「宍喰町誌」（上巻）p100～102　編集：宍喰町教育委員会　1986 年発行

式内社とは？

式内社（延喜式内社）は、平安時代の 928 年にまとめられた当時の法律の運用におけるルールブック、「延喜式」が官社（国や朝廷からお金などの捧げ物を贈られる神社）に指定した神社です。海陽町では、和奈佐意富曾神社と阿津神社がこれにあたるとされます。

受け継がれてきた文化財

海陽町の代表的な文化財は、戦国時代に多くの武士に愛用された**海部刀**です。海部刀はよく切れる刀として有名で、1614 年の大坂冬の陣では、阿波の蜂須賀軍が大坂城周辺の馬防柵を切り崩したことなど活躍したため、徳川家康が蜂須賀家に感謝状を贈ったというエピソードも残っています。

このほかにも、全国に約 20 部しか残っていない江戸時代の民俗資料のひとつや、県内最古の梵鐘や貴重な大般若経など海陽町には多くの文化財があります。



大日寺にある大般若経

お殿様も認めた！海部刀のひみつ



海部氏吉が室町時代に鍛えた海部刀

海部刀は、今から約 700 年～400 年前、鎌倉時代から戦国時代にかけて、笹無谷川や海部川のまわりで作られていた日本刀です。1290 年ごろ、この地域を治めていた領主（お殿様）みずからが刀づくりに熱中し、自分で鍛え始めたのがきっかけでした。その後、各地からすぐれた職人を招いて技術を磨いたため、この地域からたくさんの名刀工（刀づくりの名人）が生まれました。戦国時代には刀づくりが大いに栄え、日本国内だけでなく、海を渡って中国（明）や朝鮮半島にまで輸出されるほどの人気だったのです。

海部刀がこれほど人気だった理由は、大きく 2 つあります。ひとつは、ばつぐんの切れ味です。当時の本に「名のある武将は、みな海部物を持つ」と書かれるほどの切れ味でした。江戸幕府の 8 代将軍・徳川吉宗がまとめた名刀リスト「享保名物帳」にも、**岩切海部**という海部刀の名前がしっかり記されています。もうひとつはデザインです。刀のさやなどの外装拵[8]に、サクラの木の皮をきれいに巻きつけた**海部拵**という独特のデザインが特徴です。



ふるるんも海部刀を愛用しているよ。

参考：「海部町史」p41～43　編集：海部町史編集部　1971 年発行
「海南町史」（上巻）p224～244　編集：海南町史編さん委員会　1995 年発行
「宍喰風土記附刀剣編」p6～7　著者：中島源　1969 年発行

8）鞘や柄、鍔などの日本刀の外装のことです。刀身を保護し、実用性を向上させるほか、所有者の威厳を示す役割もあります。

練習問題にチャレンジ！

海部刀の技術が向上し、多くの名工が生まれた理由として正しいものはどれですか？

1　特別な鉄の採掘法を発見したから　　2　各地から優れた職人を招いたから
3　幕府から特別な教育を受けたから　　4　海外の技術をそのままコピーしたから

正解は 27 ページをチェック！

藩主も認めた刀工　海部氏吉

海陽町を代表する刀工が**海部氏吉**です。この名前は、14 世紀末（室町時代）の初代から代々、すぐれた弟子へと受け継がれていきました。

氏吉による名作**岩切海部**は、「岩をも真っ二つに切る」といわれたほどの切れ味が、その名の由来です。あまりのすごさから、戦国時代の天下人・三好長慶や、名軍師・黒田官兵衛の黒田家など、歴史上の有名人たちがこぞってこの刀を求めました。

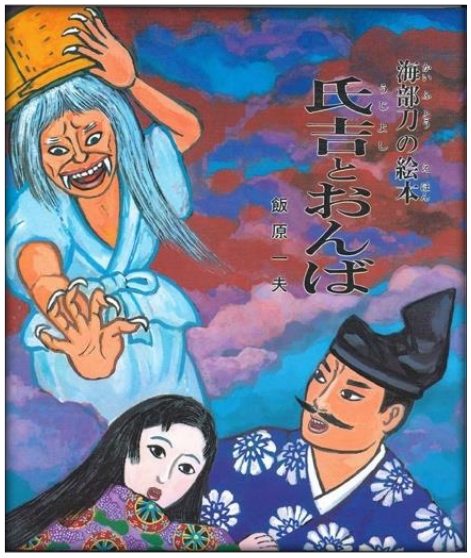
1660 年、当時の海部氏吉（実兵衛）は阿波国の藩主に雇われ、徳島城下へ移りました。それから大正時代まで、なんと十一代・250 年以上にもわたって、徳島で刀を作り続けたのです。海陽町の笹無谷の入り口には、全国に名をとどろかせた氏吉をたたえる石碑が建てられています。

またその他、**海部氏次**は 1649 年頃に土佐の田浦（安芸郡田野町）に移り、中島氏詮などの刀工を輩出しています。

そして現在は、海部刀にまつわる伝説が絵本になって伝えられています。



海部氏吉の碑



海部刀の絵本「氏吉とおんば」

参考：「海南町史」（上巻）p224～243　編集：海南町史編さん委員会　1995 年発行
「海部町史」 p41～43　編集：海部町史編集部　1971 年発行
「海部の人物」p7～9　編集：海部郡教育研究所　1968 年発行
「阿波海部刀の世界」（第 22 回国民文化祭海陽町実行委員会）

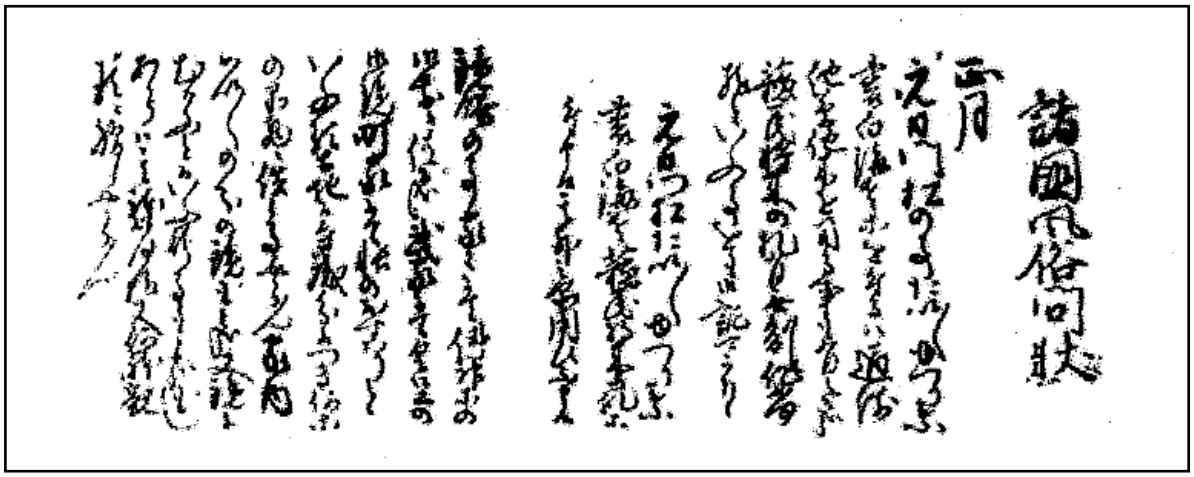
練習問題にチャレンジ！

流域で海部刀の産地だったことで知られ、海部氏吉の石碑がそばに建てられている海部川の支流はどの川でしょうか。

1　王余魚谷川　　2　相川　　3　母川　　4　笹無谷川

正解は 27 ページをチェック！

全国でたったの６部だけ！江戸時代の風習を記す文書



諸国風俗問状宍喰村答書
宍喰町誌より

上の古文書（古い時代の歴史的な書類）は、**諸国風俗問状宍喰村答書**（しょこくふうぞくといじょうししくいむらとうしょ）といいます。江戸時代の終わりごろ（1817 年）、幕府から「それぞれの土地では、どんな暮らしをしているのか」というアンケート諸国風俗問状[9]が届きました。それに対して、当時の久保村の庄屋（村長）だった多田家が、宍喰村の生活のようすをくわしく書きまとめたお返事（答書）です。

このアンケートの答書は、行方が分からないものも含めて、全国で 22 部しか残っていません。さらに、この宍喰村のもののように、ひとつの村の暮らしがまるごと一冊にまとまっているものは、日本全国でたったの **6 部だけ**です。

たいへん貴重なものとして、**県**の文化財に指定されています。

この文書は、阿波学会が 1973 年に行った宍喰町での調査中に
江戸時代に庄屋を務めた多田家の屏風（びょうぶ）に貼り付けられていた
ところを偶然発見されたものなんだって！



参考：郷土研究発表会紀要第 20 号（総合学術調査報告 宍喰町及びその周辺）p137～151
「諸国風俗問状宍喰村答書発見報告」　著者：森甚一郎　1974 年発行
「宍喰町誌」（上巻）p215～228　編集：宍喰町教育委員会　1986 年発行

9）江戸時代後期に幕臣の屋代弘賢（やしろひろかた）が日本の各地に送った質問状のことです。各地域の年中行事や冠婚葬祭にまつわることなどを細かく質問しています。

練習問題にチャレン

「諸国風俗問状宍喰村答書」を書きまとめたのはどのような立場の人ですか？

1　宍喰村の漁師　　2　久保村の庄屋（村長）
3　旅をしていた学者　　4　幕府から派遣された役人

正解は 27 ページをチェック！

御崎神社の梵鐘は県内最古！

若松大橋の北側にある御崎神社には、とても貴重な**梵鐘**（お寺などにある吊り鐘）があります。

高さは 41.1 センチ、直径は 27 センチと、両手でかかえられるくらいの小さな鐘ですが、

驚くのはその古さです。鐘には室町時代である「永享 4（1432）年」という文字が刻まれていて、徳島県のなかで**いちばん古い鐘**だとされています。

県の文化財に指定されており、今は大切に守るため「海陽町立博物館」に保管されています。



御崎神社の鐘

参考：「海南町史」（下巻）p902～903　編集：海南町史編さん委員会　1995 年発行
海陽町「海部のふるさとマップ ～海陽町編～ 海南」
https://www.town.kaiyo.lg.jp/bunkamura/shisetsu/hakubutsukan/siryou.html
（令和 7 年 6 月 2 日閲覧）

ちなみに、海陽町の神社名で最も多いのは「御崎神社」。
相川や小川などの海部川流域や浅川に見られるよ。
大正時代には宍喰にも 10 社ほどあったんだって。



3 つの寺の遺産が残る　大日寺

宍喰浦にある**大日寺**は、真言宗のお寺です。明治時代までは、大日寺のほかに**真福寺**と**円頓寺**という、立派な 2 つのお寺があり、このあたりは寺町と呼ばれていました。しかし、時代の流れでお寺を続けていくのが難しくなり、大正元年（1912 年）に、大日寺がこの 2 つのお寺を引き継ぐことになったのです。

そのため、今の大日寺には、それぞれのお寺の歴史が集まっています。たとえば、「護摩堂」には、もと真福寺の「祇園薬師如来」や、もと円頓寺の「金剛界大日如来」が祀られています。

さらに、**県**の文化財に指定されている貴重なお経**大般若経**も、もと真福寺から大日寺へと大切に継承されています。

参考：「宍喰町誌」（上巻）p151～159，1766～1771　編集：宍喰町教育委員会　1986 年発行

円頓寺は江戸時代に「駅路寺」のひとつに定められて、
お遍路さんなどの旅人の支援や、
村で怪しい動きがないかの監視を行っていたよ。



本尊は日本三体歯仏　願行寺

海陽町の宍喰浦にある**願行寺**はもともと**安養寺**という名前で鈴ヶ峰のふもとにありましたが、1579 年に今の場所に移されて**長福寺**と名前が変わりました。さらに、江戸時代の 1700 年代前半に、今の願行寺という名前になりました。願行寺には、全国的にめずらしい「歯仏」や「歯吹如来」と呼ばれる「阿弥陀如来像」があります。室町時代に作られたもので、高さは約 76 センチあり、なんと歯が見えています。京都の正法寺、横浜の青源院にある仏像と並んで、**日本三体歯仏**の 1 つに数えられています。願行寺にはこの他にも、お湯を沸かす道具の鑵子[10] や、お寺の鐘の梵鐘など、海陽町の有形民俗文化財に指定されている貴重な宝物が、今もここで大切に守られています。

参考：「宍喰町誌」（下巻）p1762～1766, 1867　編集：宍喰町教育委員会　1986 年発行
日本歯科医史学会会誌　第４巻２号 p54～59　「歯吹如来造像の疑問点について」　著者：長谷川正康　1976 年発行

10）お茶に使う湯を沸かす釜、茶釜のことです。この鑵子は、かつて鈴ヶ峰円通寺観音堂のいろりにかけられていたもので、すすを落としたり、鑵子を下ろしたりすると、異変が起こるという言い伝えがありました。

海陽町の神社に多い！？謎の割拝殿

神社の本殿（神様がいる場所）の手前にある、参拝者が手を合わせてお参りをする建物のことを「拝殿」といいます。

海陽町の神社には、この拝殿の真ん中が通路（土間）になっていて、そのまま通り抜けられる珍しい形の建物がたくさんあります。これを**割拝殿**と呼びます。


割拝殿（鳥居の奥の建物）

この割拝殿は、関西では格式の高い神社で見られる特別な様式です。なんと徳島県内では、ある 1 か所の例外を除くと、海陽町にしかありません。

それなのに、海陽町ではあちこちの神社でふつうに見かけることができる、地域ならではの大きな特徴なのです。

平家の落ち人の弔いの舞いが由来　船津太刀踊り

船津太刀踊りは、船津地区に昔から伝わる盆踊りで、町の無形文化財（形はないけれど、残していきたい大切な文化）にも選ばれています。



船津太刀踊り

この踊りが始まったのは、今から 800 年以上むかしの源平時代。戦いに敗れて、この船津の地に命からがら逃げてきた、平家の武将・河内助右衛門という人がいました。助右衛門は、いつ敵（源氏）が襲ってくるか分からないため、毎日いっしょうけんめいに武術の訓練（調練）をしていました。そしてお盆の３日間、亡くなった主人の平通盛や、戦死した仲間たちの霊をなぐさめる（弔う）ために、日ごろの訓練の成果をみんなで披露したのです。これが、船津太刀踊りの始まりだといわれています。



参考：「宍喰町誌」（下巻）p1836～1838　編集：宍喰町教育委員会　1986 年発行
「公民館報　海陽」第 38 号　編集：海陽町教育委員会　2012 年発行

東北の敵討ちの物語が由来　宍喰の団七踊り

宍喰地区には、町の無形文化財に指定されている伝統芸能宍喰の団七踊りがあります。

実はこの踊りは、江戸時代に、今の宮城県（奥州白石）で実際に起きた「百姓の姉妹による武士への仇討ち事件」がもとになっています。そのお話が劇（白石物語）になり、和歌山県から海を渡って、ここ宍喰まで伝わってきたといわれています。

船津の太刀踊りと同じように、武器を持って勇ましく舞うのが特徴です。姉妹の役は「なぎなた」と「くさりがま」、武士（志賀団七）の役は「太刀（刀）」を手に持ち、音頭のリズムに合わせて迫力のある踊りをくり広げます。

参考：「宍喰町誌」（下巻）p1832～1833　編集：宍喰町教育委員会　1986 年発行
海陽町「海部のふるさとマップ ～海陽町編～ 宍喰」
https://www.town.kaiyo.lg.jp/bunkamura/shisetsu/hakubutsukan/siryou.html　（令和７年６月２日閲覧）
「文化財読本」p108　編集：徳島県教育委員会　1972 年発行

海陽町のもうひとつの式内社　阿津神社

御祭神　木花開耶姫命

阿津神社は、相川の阿津にある神社です。創立年代はわかっていませんが、永享元（1429）年の棟札[11]には**式内室比売神社**とあるため、和奈佐意富曾神社と同じ**延喜式内社**ではないかと考えられています。1840年の「海部郡取調廻在録」にも「延喜式神名帳に出ている室比売神社であると伝えられている」という記述がみられます。



昔の阿津神社

阿津神社に関わりのある伝承として、**あづ姫**の伝説が残されています。この伝説では、都から逃げてきたあづ姫の死を憐れんで阿津神社が建てられたとされています。

「あづ姫」の伝説

都から逃げてきたあづ姫は、鞆浦の庄屋の高橋家に隠れていました。高橋家の人たちも見つからないよう協力していましたが、捜索の目が日に日に厳しくなっていったこともあり、海部川上流の人目の少ない土地に身を隠すことに決めました。

出発の日、あづ姫は庄屋に「これまでの感謝のしるしとして、“お金”か“生まれ”のどちらかをさし上げます。」と言いました。これに庄屋は「お金は使えばすぐなくなるので、いつまでも続く生まれをいただきたい。」と答えました。すると、庄屋の家では代々美人が生まれ、「高橋の井戸で顔を洗うと美男美女になれる。」と評判がたつほどでした。

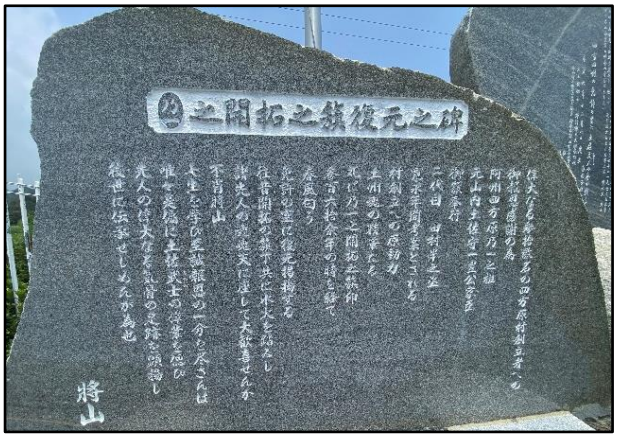
鞆浦から上流の相川に逃げ隠れたあづ姫でしたが、相川にも追手がやってくるようになったため、これ以上追跡から逃れられないと悟り、山を降り、大井の小さな池に大切にしていた機織り機を抱いて身を投げました。このことを憐れんで、相川には阿津神社が、大井の池のほとりには池姫神社が建ち、池の周辺は姫村と呼ばれるようになったといわれています。また池の魚は、姫の機織り機の部品が当たって片目になっているといわれています。

参考：「海南町史」（下巻）p945　編集：海南町史編さん委員会　1995年発行
「海部町史」p535～536　編集：海部町史編集部　1971年発行

11）建物の建築・修築の記録として、梁（屋根や床を支える水平方向の骨組み）などの建物内の高所に取り付けた札のことです。

「乃一」が開拓した四方原　四方原開拓碑

海南郵便局から国道を渡って西へ 300 メートルのところに、大きな石碑（せきひ）が見えてきます。これは 1985（昭和 60）年に建てられた**四方原開拓碑**です。



四方原開拓碑

今から約 400 年前、江戸時代の初め、この場所はまだだれも住んでいない、石だらけの荒れ地でした。

この石碑は、「四方原を一から切り開いて、豊かな土地にするぞ」という熱い決意を**乃一**と染め抜いたのぼりに込めて開拓に挑んだ、野村惣太夫（のむらそうだゆう）たちをたたえるものです。このとき使われたのぼりと定書（さだめがき）（当時のルールを記したもの）、そして記念碑が、それぞれ**町**の有形文化財に登録されています。

参考：「海南町史」（上巻）p297～302　編集：海南町史編さん委員会　1995 年発行
参考：山河を越えて　-四方原開拓史-（多田和）
海陽町「海部のふるさとマップ ～海陽町編～ 海南」
https://www.town.kaiyo.lg.jp/bunkamura/shisetsu/hakubutsukan/siryou.html　（令和 7 年 6 月 2 日閲覧）

A 練習問題の答え

P3
正解…3　妙見山　※妙見山は世界におけるヤッコソウ自生の北限地とされています。
P4
正解…1　波のあと
P5
正解…3　植物　※雌花を持ち、種を作って仲間を増やす仕組みを持つことから、植物に分類されます。
P12
正解…3　約 7 メートル
P20
正解…2　各地から優れた職人を招いたから　※領主が技術を磨くために外部から名工を呼び寄せたことで、地域全体の技術水準が向上しました。
P21
正解…4　笹無谷川
P22
正解…2　久保村の庄屋（村長）　※多田家は当時の村のリーダーである庄屋を務めており、行政の責任者として回答を作成しました。

海陽まるわかり検定ガイドブック　～文化財編～

令和８年９月発行

発行
海陽町教育委員会
〒775-0202　海陽町四方原字杉谷 73 番地
TEL （0884）- 73 - 1246
E-MAIL　kyoikuiinkai@kaiyo-town.jp

編集
海陽まるわかり検定ワーキンググループ